テーマ：

トマトで笑顔にトマピース！

神奈川県
横浜市立日枝小学校
山本先生/蓮香先生/佐藤先生/
石田先生/濵津先生

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

栽培活動を通じてトマトに愛着を持つことで、近しい人に食べさせたい、自らの好き嫌いをなくそうという思いを育む

「凛々子」活用のポイント②

関連教科（国語・算数・理科・道徳）への展開

活動のねらい

- 野菜にも生命があることに気づき、生長して食べられるようになるまでには、たくさんの人の関わりがあることを知る
- トマトを収穫して食べること、食べてもらうことで自らの食生活を豊かにしようとする

活動の概要と流れ

対象学年：個別支援学級（２９名）
実践期間：４月～１１月

時期	学習活動
４月	準備学習
５月	定植（週に１回、観察と記録）
６月	病害虫に気づき、「トマトのカルテ」を自分たちで調べて作成。対策を考えて実践する
７月	収穫。協力してくれた人々にトマトを届ける。給食での使用を栄養教諭に働きかけ、トマトソースに使用してもらう トマトを家に持ち帰って食べる。おすすめのトマト料理を調べて発表する 採取した種を保存して苗に育てる
９月	冷凍しておいたトマトソースを給食に使ってもらう 全校に活動報告
１１月	温室で冬のトマト栽培を実験する

ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

育てる意欲を継続させ、体験を広げる活動

栽培活動は毎年取り組んでいます。「どの野菜を育てようか」「自分や家族で食べたい」と育てることには意欲的な反面、給食で野菜が出ると食べられない子どももいます。また、定期的に長期にわたって世話をするのが苦手な子どもが多いと感じていました。そんな中、カゴメからトマトをもらい喜ぶ子どもたち。その一方で、「トマトは嫌い」「トマトは苦手だから、トマトケチャップを作りたい」という子どももいました。

そこで、愛着をもって育てられるよう、トマトを植える前に土作りをし、名前を付けて定植。栽培をしているうちにさまざまなやりたいことが出てきて、「大きくて甘いトマトを育ててみんなを笑顔にする『トマピース！』になりたい」という単元が立ち上がりました。

幅広く教科連携を図り、栽培活動を生きた学びに

関連する教科に学びを広げようと、国語・算数・理科・道徳の各教科を横断して総時間数70時間の授業を展開しました。

年間を通した単元となるように「なつトマト」と「ふゆトマト」の栽培を計画。夏に収穫したトマトの種を保存しておき、秋冬にかけて温室でトマトを栽培することにも挑戦しました。

また、地域の資源循環局の方に来校してもらい、生ごみから土が作れることを学び、楽しみながら「ふゆトマト」の土作りを行ったり、土づくりの方法を全校に発信したりしました。

収穫したトマトを給食に出してもらい、活動を全校に発表

夏に収穫したトマトは、栄養教諭に相談し、給食に使ってもらえるようにしました。トマトソースにして冷凍保存したトマトを、９月には給食のピザトーストに使ってもらいました。同時に自分たちの活動を全校に発表。寄せられたアンケートをもとに、ほかにどんな料理があるかのアイデアを出し合い、次に給食に出してもらうメニューを決定しました。

１年間をガイドブックにまとめる

１年間の活動で学んだことを一冊にまとめて、全校やお世話になった方々に紹介するリーフレットを作成し、配布しました。トマト栽培の楽しさ、食べてもらったうれしさを多くの人と共有しました。

先生から一言！実践を通して

トマトに触ることすらできなかった子どもが、「凛々子」の世話を一生懸命しているうちに、実ったトマトを持ったり、作ったトマトソースを少し食べてみたりすることができるようになりました。さらに、給食のトマトスープを完食できるようになった子どももいました。

子どもたちが育てたトマトをピザソースにして給食に出してもらい、交流級の友だちや先生が食べて「すごくおいしい！」という感想をもらったことで子どもたちは自信をつけることができました。障害があり、食べられるものがとても少なかった子どもたちも自分でトマトを育て、料理を作り、味わうという活動を通じて、食に興味を持ち、苦手なものにも挑戦しようという姿が見られるようにもなり、大きな成長を感じることができました。

受賞理由

栽培活動を国語・算数・理科・道徳の教科と連携させて１年間を通じた単元として展開した先生方のアイデアと熱意が素晴らしいです！その幅広い学びを通してトマトの苦手な児童が少しずつ触れられ、食べられるようになったことは、児童の一生の宝物になると思います。